



発行：男女共同参画あきたF・F推進員・大潟村

TEL 0185 (45) 2114

2009.3. 発行

## セカンドライフのデザインはあなた次第？

老後の生活費  
っていくらく  
らいかかるん  
だろう？

老後の人生のポイントは、生きがい、健康、お金の3つです。

特に大潟村では女性達も若い頃から一生懸命働き、高齢になり足が痛かったり、腰が痛かったりと心配されるのは老後の健康についてです。

老後の生活費  
っていくらく  
らいかかるん  
だろう？

しかし女性の平均寿命は86才と男性のおよそ80才6年長く、ひとりで生きる期間の生活費についてえなければなりません。

才以上の夫婦2人の家計費は月額23万円（H15農水省）年額272万円程かかります。

例えば、介護が必要で特別養護老人ホームに入所する場合は、8万円余りとその他に日用品などで数万円かかるが見込まれ、10万円以上が必要です。

## 大潟村の女性達は農業なので、第1号被保険者で

国民年金受給者です。

現在、保険料は月払いで14,410円です。

毎年4月に280円ずつ引き上げ、最終的には16,900円に固定されます。

私の年金、いつ  
からいくらく  
らいもらえる  
の？

（20才～60才まで40年間保険料を納めた人で65才から年金の受給を開始する場合）

月額6万6千円 年額79万2千円です。

老後の家計費を年金だけで賄うためには少なくとも夫婦2人で月額10万円を国民年金に上乗せする必要があります。

知りたい  
聞きたい

# 農業者年金

どんな人が  
加入できる  
のかなあ？

大潟村のように農業者なら広く加入できます。

- ①国民年金の第1号被保険者
- ②年間60日以上農業に従事している
- ③60才未満の人なら誰でも

その他に配偶者や後継者などの家族農業従事者も加入することができます。

農業者年金に加入する人は、国民年金の付加保険料（月額400円）や付加年金（毎年200円×納付月数）の加入が必要です。

内容はどうな  
っているのか  
なあ？

① 保険料は自由に決められます。

月額2万～6万7千円

② 65才から終身受け取ることができます。

又80才までに死亡した場合、死亡一時金が遺族に支給されます。

③ 運用成績により年金額は変動します。

（例）保険料を月額2万円とした場合の支給額の試算

加入年齢	納付期間	付加利率3%の場合	
		男性	女性
20才	40年	111万円	96万円
30才	30年	70万円	61万円
40才	20年	39万円	34万円
50才	10年	17万円	15万円

## 女性も経済的自立を！

大潟村の女性達は仕事では対等な役割を担っているものの経営的には係ることは少ないのではと感じています。女性も自分の老後を考えるとき、私という個人単位でセカンドライフのための年金を用意しておく必要があります。老後のために、長い高齢期を充実して楽しく生きていくために！！

（F・F推進員 柏雄子）

# 自分らしく生きる

## ～各分野で活躍している女性の話を聞く～

1月26日、大湯村農協会館にて、各分野で活躍している女性の話を聞く会が開かれました。

講師は

○北秋田市議会

議員 小塚光子さん

○女性学入・ス・ミ あうん秋田ウイメンズ ネット

代表 児玉榮子さん、

○白神山地きみまち舎

代表 小坂珠実さん

○廃油リサイクルの会「八郎湖」

副会長 千葉恵美子さん でした。

それぞれの熱い思いを語っていただきました。



小塚さんは、議員であると同時に一人の主婦であり、そこからの視点を生かし現在ご活躍中です。

「福祉のエキスパート」との異名を持ち、今回は北秋田市の現状、特に高齢者を多数抱える地域に生きることとは、ということに重点を置きお話をいただきました。

「暮らしイコール政治です。」「住民ひとり一人の意識と自己責任が地域を変える。暮らしを変える。政治を変える。政治は、子供だろうが、障害があろうが、誰もが自分らしく生きることの大切さを放棄させてはならないし、見逃してはならない。そんな議員であり続けたい。そんな人間で居続けたい。」という言葉が印象的でした。

小塚光子さん

児玉さんは秋田市の認定フェミニストカウンセラーとしてご活躍です。

主に DV（ドメスティック・バイオレンス）を受けている女性のサポートをしておられます。DV の定義と、秋田県に置いている現状、この不幸のスパイラルを止めるための一歩へのヒントなどを中心にお話をいただきました。

「DV とは配偶者や恋人など親密な関係にある人間を支配下に置こうとするために振るまう肉体的、精神的、性的暴力のことです。」「不平等な力関係は人権侵害の何者でもない。」「DV 被害に遭っている人は自分らしく、あるがままに生きることからは遠くかけ離れていると、児玉さんから仰いました。

児玉榮子さん

資料からの説明では、秋田県内で DV の被害を何度も受けている人が35,000人。その中で命の危険を感じるほどの暴力を受けている人が17,500人。また、命の危険を感じる暴力を何度もうけている人は3,500人にも及ぶそうです。

DV 加害者は職業、宗教、国家、地域、貧富、社会的階層等には関係なく、パートナーを差別・蔑視し、暴力を振るっても良いという考えの持ち主だそうです。

エコツーリズム、グリーンツーリズムの旅行を企画している小坂さん。

東京など関東圏のお客様へ、郷土料理作りや白神山地の散策など体験ツアーの紹介をされています。その土地の利を生かした生活の紹介と、自然と共に生きることの素晴らしさを通して、自然体で生きることの重要性を教えてくださいました。

「肩肘張って、無理して生活をするのではなく力を抜くことが大切。宝物はあなたの足元にあります。」という素敵な言葉で自分らしさを語ってくださいました。そんな小坂さんは愛牛と一緒に白神のふもとで自然との共存を意識しながら暮らしています。

小坂球実さん

大潟村に在住の千葉さんは、長年に渡って大潟村の環境問題に取り組んでこられました。

その実績は多く、水質汚染へと繋がる合成洗剤を使わない運動や、合成石鹼を使わない代わりに「太郎の夢」という廃油をもとにした手作り石鹼を作る活動に参加したり、環境破壊に繋がる大潟村でのゴルフコース建設の反対運動に参加したりと、自分の意思をしっかりと持ち、行動するという手本となった方です。

お話を通して、成し遂げたいことがあるのであれば、仲間を作り、積極的に行動をしていくことの大切さを教えてくださいました。

千葉恵美子さん

アンケート結果からは、95%の人が参考になりましたとのことでした。

皆さんの声です。

- ・ いろいろな活動をしている方たちで刺激的でした。
- ・ 超高齢化社会後、地域社会がどうなってしまうのか。今、対策を思案しなければならないと思われる。
- ・ 活動の内容はそれぞれなのですが、女性としてというよりも、人として自立しているように感じました。
- ・ DVが、今も、また秋田にもある現実に驚きですが、女性が意識を持つていくことが重要だと思います。
- ・ 男性の参加者がもっと多くなるとこの活動が更に向上するのではないかな？
- ・ 自分らしくと自分勝手の違いが大変わかりやすかった。
- ・ 自分らしく生きるということは、自分を知ることだと思う。自分がどういう風に生きたいかを気づくことから始まるのかな？
- ・ 男女共同参画は理屈で考えて進めるのではなく、お互いの思いやりの心から自然と行動する人間としての基本的なことではないかと思っています。

今回の講座の『自分らしく生きる』というテーマは幅広く、深く、難しいものだったと思います。にもかかわらず、それぞれのご活躍の分野は違いますが、その活動のエネルギーとなっているものは「こうなりたい、こうしたい」

という未来への大きな夢と「自分の活動を一人でも多くの人に知ってもらいたい」と発信することの大切さを私たちに伝えて下さいました。

「自分らしく生きる」というテーマでお話いただいた4人の方々を見て強く感じたことは、どの方も自立しているということです。ただ単に経済的だけではなく、己について立ち止まって振り返り、前進し、一歩ずつ着実に進まれているという精神的な自立を感じました。

(F・F 推進員 丹野文子)





# ハーモニー広場

## だれでも一度きりの人生だから

川崎幸江

「男女共同参画社会」もうすっかり耳慣れて定着した言葉となった割には、まだ男性に正しく理解されていないように感じます。多くの男性が、「これ以上女性が強くなったらどうなるのか」と口を揃えていいます。現実には「強くなった」と言われるほど、まだ日本社会の制度や仕組みなど、女性を取り巻く環境は改善されていません。今まで男性の意のままに従ってきた女達が自己主張するようになったことを総じて強くなったと言っているのではないかと思います。男性は戦後、女性が著しく目覚め、自己決定権を行使するようになったことに、どう向き合えばいいのかと困惑しているかのように感じます。

世の中でも特に北欧などと比べると、日本はまだ遙かに男性社会です。ノルウェーなど女性議員の割合が50%近くある国では男性の寿命が延びたとされています。男女共同参画社会とは、男性にとっても「男のくせに」の縛りから解放されて、自分らしく生きることができる社会であることが、案外、理解されていないのではないかと思います。

我が家の場合は、私が現在議員をやれているのが、数年前までは考えられない状態でした。92歳の筋金入りの九州男子の舅である夫に何ひとつ文句を言わず従って一生を終えた母親を見て育った私の夫、そして長男、3人の男達の中で女手が私ひとり。姑が生きていた頃は何かひとつ家事をやったことがない夫でした。現在は、ゴミの分別から、ゴミ出し、料理も基本的なことができるようになり、数日家を空けても飢える心配はなくなりました。決して家事をやるのが、男女共同参画の実現の基準ではありませんが、相手の人格を見つめ合うことが自然と家事をやることにつながったのではないかと勝手に思っています。

私達が太田村へ入植した当初は、毎日のように出て歩く機会がある夫に比べて私は知人もなく、母親と妻、そして嫁の役割をこなすだけで精一杯の毎日で、フルネームのいらない「～さんの奥さん」で通る世界でした。夫の農作業最優先の方針に従い、息を切らしながら生活していたその時期は、自分のストレスを子供にぶつける愚かな母親でした。それでも何十年もかけて私はあきらめずに自分の思いを夫に言い続けてきました。その結果なのか、夫に言わせると「年をとったからだ」と言いますが、いつしか私の価値観に歩み寄ってくれるようになりました。

現在、議員という立場になってみて、改めて女性は特に家庭の理解と協力がないと、十分な議会活動ができないとつくづく思います。わたしにとっての男女共同参画社会とは、肩を張って男性を敵対視したり、被害意識を持つのではなく、持って生まれた性差、特長は認め合いそしてどちらかの価値観を押し付けたり、従うことではなく、お互いの違いを認め合い、相手の人格を尊重し合う社会、人間として当然あるべき思いやりのある社会の実現ではないかと思います。



### ～編集後記～

すっかり春らしくなってきました。

農作業が本格化し、忙しくなりますが、どうぞ安全第一で頑張ってください。

農作業の合間には、ぜひご家族でこの通信の感想を話し合ってくださいと嬉しいです。

(役場住民生活課 菅野)

☆各記事についてのお問い合わせはこちらへ☆

太田村役場住民生活課 TEL 0185-45-2114 (内線245) FAX 0185-45-2162